

実践報告

札幌市立あやめ野中学校

(1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習の研究」

- 自他の権利を尊重する学習を通し、特にいじめ、差別、偏見の撲滅をめざし、不正な言動を許さない態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】生徒会活動での「いじめ撲滅運動」について

○ ねらい

- ・ 仲間の大切さやいじめについて考えを深め、みんなでいじめのない学校をつくる。
- ・ いじめに対する他の生徒の意見を知り、いじめを「しない」「させない」「見過ごさない」考えをもち、行動できるようにする。

○ 学習内容 (12月に生徒会生活委員会が実施)

ア いじめ撲滅に対する横断幕の作成

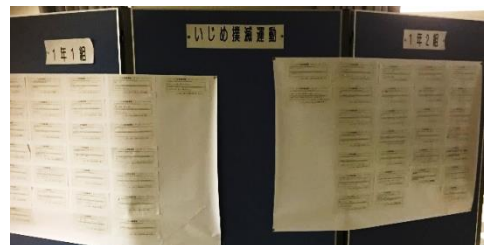
イ いじめ撲滅への署名活動(横断幕に署名)

ウ いじめ撲滅運動のアンケートの実施とその掲示

※本年度からの活動ではなく、従前より毎年行っている。



校舎中央の吹き抜けスペースに掲揚された署名の横断幕



いじめに対する自分たちの考えを掲示

また、学校としては、11月に行う教育委員会様式のいじめや悩みに関するアンケート以外に、本校独自のいじめアンケートを7月と2月に実施している。

【実践②】「人権教室」の実施(全校道徳、6/30実施)

○ ねらい

道徳教育及び道徳の時間の目標に則して、自他のかけがえのない生命を尊重するとともに、自他の権利を尊重し、自分に課せられた義務を果たす態度を育てる。

○ 学習内容

法務局および NTT ドコモよりゲストティーチャーを招き、全校で講話を聞き、自他の権利や生命について考えた。講話の内容は、法務局より、道徳教育にも精通して

いる人権擁護委員の日下部憲一氏を迎え、講話をいただいた。続いて、NTT ドコモより「スマホ・ケータイ安全教室」の内容で、ネットモラルの事例を踏まえた講話もいただいた。



人権教室での講話

【実践③】 道徳の時間におけるいじめを題材とした授業の実施

○ ねらい

道徳教育及び道徳の時間の目標に則して、道徳の時間にいじめを題材とした教材の学習を通し、自己を見つめ、いじめの本質について広い視野から多面的・多角的に考え、いじめの愚かさを知り、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育てる。

○ 学習内容

- 1 学年 「私もいじめた一人なのに…」(廣済堂あかつき「自分を見つめる」)
「卒業文集最後の二行」(文部科学省「私たちの道徳」)
- 2 学年 「ひとりぼっち」(廣済堂あかつき「自分を考える」)
- 3 学年 「卒業文集最後の二行」(文部科学省「私たちの道徳」)

上記の教材による授業を各学年で行い、ねらいに迫った。1 学年「卒業文集最後の二行」は公開研究授業として実施した。

また、上記とは別に、毎年 9 月に「札幌市子どもの命の大切さを見つめ直す月間」の実施に合わせ、各学年で「D 生命尊重」を軸とした 2 時間続きの学年道徳を工夫を凝らして実施し、自他の生命の大切さについて考える授業も行っている。

・「卒業文集最後の二行」道徳の時間(公開授業)について

ア 主題・内容項目 いじめを許さない ・ C 公正、公平、社会正義
(関連項目)(D より良く生きる喜び、A 自主、自律、自由と責任、B 思いやり、感謝)

イ ねらい

歳月の経過によっても風化することのない筆者の自責の念と T 子さんが負った深い心の傷からいじめの本質を考え、いじめの愚かさを知り、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない道徳性を養う。

ウ 主な発問

○ T 子さんの卒業文集の最後の二行を見て、筆者の涙が止まらないのはなぜだろう。

◎ T 子さんは、なぜ母親よりもきれいな洋服がほしいと言ったのか。

エ 生徒の感想（抜粋）

- これからの生活で、もし自分がT子さんのクラスメートのような立場になったらいじめられている人のSOSを聞いてあげたり、両親にクラスの様子を相談してみようかなと思いました。自分では止められなかったとしても、力になってあげようと思いました。
- （自分が）もし筆者なら、あの時、自分がカンニングしたこと、これまでいじめてきたことをすべてT子さんに謝るべきだったなと後悔したと思います。
- いじめというのは本当によくないことだし、いじめは絶対にしてはいけないことだと思った。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 小規模校の特性も相まって、全校生徒および教職員が一体となっていじめ撲滅を軸とした「子どもの権利を尊重する学習」を推進できた。
- 読み物教材を活用し、自己を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考える道徳の時間の学習指導について研修を行うことができ、前述したような子どもの振り返りによる成果を多く得ることができた。
- 以前より本校が重視し、大切にしてきた「いじめ撲滅の取組」や「自他の命を大切に作る取組」などを、「子どもの権利」を軸として整理し、位置付けることで教師自らの人間尊重の意識向上にもつながり、より一層推進しやすい人権教育となった。

② 課題

- 道徳科の完全実施を前に、評価も含めたより一層の研究の推進が必要である。
- 道徳と特別活動だけでなく、総合や各教科も含めた学校教育全体を通して行う「子どもの権利に関する学習」をより明確に位置付け、実施することに課題がある。
- 校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育の推進については、まだカリキュラムや取組についての情報交換自体できておらず、課題が多い。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 人権教育には知的理解や生活指導だけでなく、道徳性の育成が不可欠である。道徳科の新設に伴い、道徳科の授業の推進とともに人権教育を位置付けることでより一層、人権教育を推進することが可能である。
- 人権教室や公開授業など新しい取組だけではなく、以前より各校が行っている取組を大切にしながら明確に教育課程に位置付ける（人権教育としてのカリキュラムマネジメントを行う）ことにより、無理なく、持続可能で効果が見込まれる人権教育を行うことができるのではないか。